

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170100846		
法人名	(有)ティー・エイ・シー		
事業所名	オークヴィレッジ かるがも		
所在地	札幌市北区新川4条19丁目5-7		
自己評価作成日	平成25年8月1日	評価結果市町村受理日	平成25年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした流れの中で、安心と尊厳のある生活を保障され、個人が主体的な決定を行なえるよう様々な分野の活動、又は機会を支援すると共に、地域において必要な福祉サービスを総合的に個人の状況に応じ提供されるよう援助している。又、家庭的な雰囲気の中で普通の暮らしを行う事によって生活の楽しさや、自信を持って頂けるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100846-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年9月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「オークヴィレッジかるがも」は、新興住宅地の一角にある大きな公園に隣接した、自然環境に恵まれた場所に位置している。人間行動心理学に基づいて設計された広々とした室内は、各利用者が落ち着いて過ごせる間取りで、家庭的な温もりのある共用空間になっている。管理者は、月日の経過と共に利用者の身体状況が変化しても、一人ひとりが利用開始時と同じような笑顔でその人らしい生活が送れるようにしたいという思いで、本人の残存能力を引き出しながら、多方面に渡り自立した生活を職員と共に支えている。各利用者の現状が把握できるようにケース記録用紙の書式を工夫して介護計画の見直しに活かすなど、独自の書類を整備して充実したケアや運営に取り組んでいる。個別支援による外出や手作り弁当を持参しての外出など、積極的に外気に触れる機会を取り入れている。また、利用者と一緒におやつ作りをしたり、ボランティアによる手芸教室などの楽しみ事も多く取り入れている。管理者を中心に職員間のコミュニケーションも良く、日頃から意見交換を行いながら向上心を持って温かなケアに取り組んでおり、事業所内には、利用者と職員の明るい笑顔と笑い声があふれているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かかっている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は常に念頭におき職員同士で共有し合い実践に繋げている。	介護理念の中に、「地域の中で孤立しないよう交流をはかるように努める」という地域密着型サービスの意義を踏まえた項目を掲げ、朝の全体申し送りで唱和している。各職員は携帯しているカードで再確認しながら、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ拾いやお祭りなどに参加したりと日常的に交流している。	中学生が訪問体験学習で来訪して楽器を演奏したり、おやつ作りや昔遊びを一緒に楽しんでいる。事業所のお祭りに多くの地域住民が参加したり、定期的に手芸ボランティアの方も来訪している。近隣から、野菜のお裾分けを頂く機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な地域への回覧板を通してかるがもの事業を知っていただくと同時に地域の高齢者が気楽に来訪しやすい様働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催され、参加者より色々なご意見を頂きホームの向上に努めている。	家族の来訪時に参加を呼びかけ、議事録を全家族に送付している。外部評価の結果報告時には、期待したい項目に対して、参加者からアドバイスや意見なども出されている。町内会役員の参加や意見収集に向け、今後も働きかけを行う意向である。	年間テーマを設定するなどの工夫で、町内会役員への参加依頼や参加できない家族の意見収集に活かされ、会議が更に充実するように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行き来は少ないものの必要時は可能。運営推進会議にてかるがもの運営についての相談もしている。	書類などで分からない事があれば、電話やメールで問い合わせたり、介護保険の更新申請で役所を訪問した機会に相談している。生活保護の担当職員が来訪した時は、利用者本人の事について相談する事もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険が伴う場合は声掛けや一部介助をし危険回避に努めその他は見守りを中心として利用者に自由に行動して頂いている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を含む事業所独自のマニュアルを作成して、会議で事例に沿ってケアの再確認を行っている。言葉による抑制や不適切な言葉づかいがあれば、その都度管理者は注意を促している。昨年度は、具体的な禁止行為の内容について学ぶ機会がなく、職員の理解は不十分な面もある。	身体拘束について研修する機会を設けるなど、全職員で「禁止の対象となる具体的な行為」を再確認して学びを深められるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に全身の確認を行ない、肉体的虐待や精神的(言葉の表現は特に)虐待防止に努めている。		

オークヴィレッジ かるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在他ユニットに利用している方がおり、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学にこられた時から説明させて頂き、契約時には特に何度も説明しご家族からの質問・疑問の確認をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大事にし又、意見や要望が無いかなど等会話の中から聞き取り運営に反映させている。	家族の来訪時に近況などを報告して、意見や要望が言いやすいような雰囲気づくりに配慮している。家族からの意見は業務日誌に記録しているが、今後記録方法を工夫し、更に全職員で情報を共有できるように取り組んでいく意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各個人からはその都度意見を聞き、全体の意見は月1回の会議にて話し合いをし反映している。	管理者は、日頃から各職員とコミュニケーションを取りながら意見を聞き取るように配慮し、年1回は個別面談を行っている。職員は、行事や誕生会、備品管理や新聞作成などの役割を分担しながら運営に携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人からはその都度意見を聞き、全体の意見は定期的に行なわれている全体会議にて話し合いをし反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各個人が行きたい研修等へは、積極的に行けるよう配慮したり(休日を取りやすくする等)。又、外部研修に参加する機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議などにて、管理者間での情報交換やネットワークづくりを行っており、又、その研修会にも参加することで更なる質の向上を図れるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向等を聞き、入居時には不安が少なくなるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見・要望や不安な事等傾聴し安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々変化していくため、その都度話し合いをし今必要な事・求めている物を把握し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は手伝って頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	より良い暮らしをして頂く為、関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援するように努めている。	知人が来訪したり、電話や手紙のやり取りを継続している利用者もいる。帰りがけに来訪しやすいように声かけしたり、手紙の代筆をして馴染みの人の関係が継続出来るように支援している。家族と一緒に、お墓参りなどに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり合い支え合えるよう交流の場を提供したりし支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後は、関わる機会がほとんど無いのが現状ですが、他サービスへ移行しても入居者が安心できる様申し送りに配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いやりや暮らし方の希望・意向の把握をスタッフ同士での情報交換の連携を図っている。	利用開始後の変化は、その都度「焦点情報」に追記して毎年書類を更新している。ケース記録用紙の同じページに前年と今年の項目欄を作り、比較しながら状態変化の経過が把握できるように書式を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や生活環境を把握し過ごしやすい環境を提供できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調や状況等日々把握し過ごしやすい環境を提供できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に話し合いその都度見直しを行い安心して生活が出来るように努めている。又、必要に応じて随時見直しを行える体制が整っている。	事前に家族の思いや意向を聴き取り、全職員で評価を行い、計画作成担当者が中心になって3か月毎に更新計画を作成している。ケース記録用紙に「介護計画施行内容」項目を設け、介護計画と連動した記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状の変化を見極め本人や家族の要望に添った対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に手芸ボランティアの方に来訪していただいたり、近隣の学童保育の児童達及び小・中学生の来訪などがある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師や医師の往診を行なっているが、入居前からのかかりつけ病院に受診されている方やご家族の希望に応じて受診できるよう支援している。	本人や家族の意向に応じてかかりつけ医を継続しており、家族が受診に同行する時は、本人の状況を記録して医師に伝えている。各専門医と協力医療機関の医師が連絡を取り合い、情報を共有して適切な治療を行っている。	

オークヴィレッジ かるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきを看護師や医師に相談出来る状況にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院前の状況を出来るだけ伝えられるよう薬の情報や診療情報提供書を常備している。又、入院中は病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な医師や看護師の診察を行なう事で不調の早期発見に努めご家族に報告している。現在、終末期の方は居ないが認知症の進行に伴うレベルダウンについては常にご家族に理解していただけるよう努めている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、利用開始時に説明している。医療処置が必要な場合は事業所での対応は難しくなるが、医師の判断の下、家族や本人の希望に応じて「看取りの指針」を取り交わして看取りも行う意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え常に話し合いを適切な対応が出来るように研修等に参加している。又、何時でも確認できるようにスタッフルームにマニュアルがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を日中・夜間想定訓練し、地域の消防団の方と協力し近所の方も訓練に参加して頂いている。	年間6～7回、可能な限り消防署の協力も得ながら昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。前回の課題であった、災害備蓄品の整備も行われている。今後は、火災以外の災害に対する対応などについて、職員間で理解を深めて行く意向である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重しプライバシーを損ねないように対応に気を付けている。	つつまの合わない言動があっても、さりげなく対応し、その人の誇りを傷つけないように配慮している。利用者から離れた場所で記録を行い、個人情報の書類等はスタッフルームに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情・言動・行動に注意を払っている。又、自己決定時には多くは提供せず選びやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせその都度対応し安心して生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとり身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		

オークヴィレッジ かるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調や状況に合わせて日々お手伝いして頂いている。	食材会社の栄養士が定期的に来訪して献立の参考にしている。誕生日には副食を選択してもらったり、個別に外食を支援している。利用者は能力に応じておやつ作りや食事の作業に参加し、職員と会話をしながら食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態等常に把握しバランスや量を確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じて口腔ケアを毎食後行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや習慣を活かして自立に向けた支援を行なっている。	日中の他、夜間も可能な限りトイレでの排泄を目標に支援している。季節の変わり目には間隔を調整するなど、できるだけ紙パンツを使わないケアに取り組んでいる。トイレの声かけや誘導時には、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動等働きかけ、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるよう個々に添った支援を行なっている。	入浴は、複数の職員が勤務している場合、早い時間帯や遅い時間帯でも可能であり、週3回を基本に希望に応じて入浴を支援している。入浴の拒否が続く時は、協力医や看護師の訪問時に口添えをお願いしたり、同性介助や2人介助など個々に合せた対応で、ゆったりと湯舟に入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	動ける方は、自室や居間など自由に選んで過ごされている。選べない方は表情や体調を観察し状態に合わせて自室での休息を促している。夜間帯はスムーズに眠りにつけるよう関わりに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用について理解し症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中で力にそった役割や楽しみごとの機会を増やし支援に努めている。		

オークヴィレッジ かるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣の公園にお弁当を持っていったり、桜の季節には花見をしたり庭でシャボン玉をしたり畑の野菜や花を眺めたりしている。又、季節ごとのドライブ外出をしている。	公園内や周囲を散歩し、広い庭や2階ベランダでの外気浴を積極的に取り入れている。利用者の意向に沿って、計画的に毎月交代でドライブ外出を支援している。冬季も、車中からの雪まつり見物や初詣に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で保管出来る方にはして頂き、必要時には使用する事も可能な状況。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の要望に添った対応に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう飾り等工夫をし、その時々々の雰囲気作りをしている。	共用空間は窓が多いので全体的に明るく開放的である。居間には少人数や一人でゆったり過ごせるように、食卓テーブルとソファの配置に工夫が見られる。居室の近くに4か所のトイレと洗面所を設け、導線やプライバシーに配慮した造りになっている。共用場所の装飾はセンスもよく、温かい雰囲気を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の意思に伴い思い思いに過ごせるように努め、場所の工夫にも心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を活かして本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	各居室には備え付けのクローゼットの他、自宅から馴染みの家具・小物類や仏壇などが持ち込まれている。観葉植物、縫いぐるみ、思い出の写真、種々の装飾などに囲まれた個性的な居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで様々な場所に手すりを設置しており安全に生活できるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170100846		
法人名	(有)ティー・エイ・シー		
事業所名	オークヴィレッジ かるがも		
所在地	札幌市北区新川4条19丁目5-7		
自己評価作成日	平成25年8月1日	評価結果市町村受理日	平成25年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした流れの中で、安心と尊厳のある生活を保障され、個人が主体的な決定を行なえるよう様々な分野の活動、又は機会を支援すると共に、地域において必要な福祉サービスを総合的に個人の状況に応じ提供されるよう援助している。又、家庭的な雰囲気の中で普通の暮らしを行う事によって生活の楽しさや、自信を持って頂けるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100846-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年9月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2F アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各スタッフ理念・介護理念を明記した物を持っており常に確認出来る状態にある。又、1, 2階の申し送り後全員で確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事には参加させていただいたり、学童保育の子供達が来訪されたりと日常的に交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や相談に来られた方などの悩みや不安等を共有しその方に合った対応をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の方から、それぞれの意見を頂き話し合いを行いサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者会議等で情報の交換と協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の意思を尊重し職員間で見守り声掛け等を行い身体拘束の無いケアをし、入居者の方には自由に生活して頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の行動観察や入浴時及び着替え時などの身体確認を徹底し虐待防止に努めている。		

オークヴィレッジ かるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方が居る為理解している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせや契約に至るまで利用者や家族等に説明を行い理解・納得を図っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際に家族の方より意見・要望を頂き話し合う機会を設けている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にスタッフの意見に耳を傾けている。又、全体の意見として月1度の会議にて意見交換している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が参加する会議にて、報告し把握して頂いている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な資格取得の為に事業所は斡旋している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区が行う会議等に出席し他事業所との交流を図り、サービスの質を向上させている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学して頂いたり、面接時の会話の中から情報を収集し不安が少しでも取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前後で会話の中から不安な事、要望等を聞く機会を作り受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時前にも本人と家族の求めているサービス内容を再確認し、入居時にその他のサービスを希望される時には、出来るだけ要望にこたえられるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人が自ら生活していくと言う意欲を尊重しより良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時及び新聞等にて本人の状況を報告したり、相談・意見をいただいたりお互いに連絡を取りながら共に支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話の中からくみ取るようにし昔あった出来事や知り合いの事等を思い出すきっかけを作るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士一緒に過ごす事の大切さを考え会話が無くともスタッフのフォローにより楽しく過ごせる空間を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者やご家族の方からの相談があれば支援も努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各個人の生活や考え方希望を把握し職員間での情報交換を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方等の情報を本人や家族からの情報で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録として、業務日誌や個人記録があり、更に細かい情報は申し送りの中で説明する等全職員が現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を立てる時には必ずご家族の意向を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察、記録、申し送り等により見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族環境の変化等から家族の要望希望があれば病院、デイサービス等の相談をしフォローしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の関係者の協力を得ながらボランティアや学童保育、小・中学生の来訪などにて交流を持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院を受診されたり、週に一度馴染みの医師が訪問し定期的に医療が受けられるよう支援している。		

オーケヴィレッジ かるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護により健康状態を伝えてい る。又、入居者自身より相談されたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者に負担が無く円滑に行えるよう 情報交換やより良い関係作りを努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を設け入所時にご家族に説明させて 頂き共に終末期のケアを行えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や緊急時の訓練を受けており事故発生時 には緊急連絡網等にて各関係者と連絡が取れるよ うな対応に成っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等定期的に行なっており、地域の消防団 とも連携がとれるようにしてある。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その人の誇りやプライバシーを傷つ けないような声掛けを行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を日常生活での行動・会話・表情等を 良く観察し理解し自己決定出来るように働きかけて いる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活リズム又はその日の健康 状態、精神状態により日々暮らし方が変化する中 でご本人が落ち着いて安心できる生活環境を提供し、 更にはその日の暮らし方をご本人が選択出来るよ うな環境づくりに心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後には整髪や髭剃り等の声掛けをしたり、定 期的に訪問理美容の活用をしている。又ドライブ外 出やお誕生会等施設内行事がある場合は、お化粧 や着替えなどおしゃれが出来るよう支援している。		

オークヴィレッジ かるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の準備や食後の片づけ等に参加する事により食事の雰囲気を楽しめるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配達される食材はカロリー計算されており水分も定期的に摂取を促し必要に応じて声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必要な方には、うがい、歯磨きの声掛けをしたりしている。又訪問歯科も実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の難しい方は時間間隔にて声掛けをし24時間排泄チェックをしている。紙オムツの利用は出来る限り使用しないように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便確認をし、乳製品や腹部マッサージを必要に応じて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の状況により声掛けの時間を考えたり、本人の希望時間を聞いたり等行なっている。又、浴槽内が嫌な方にはシャワー浴にしたりとその人に合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる際には、それぞれの部屋の温度、灯り等を考慮し安眠できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と相談の上で薬の変更等する際、内容は業務日誌等に記録し新しい薬の情報はお薬手帳により理解や確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活の延長として、食事の準備、片づけ等お手伝いして頂き楽しく過ごせるよう気分転換出来るように支援している。		

オークヴィレッジ かるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やベランダにて日光浴をされたり、買い物の希望があった際には同行し出かけている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方は金銭管理を任せている。又、お預かりしている方は現金出納帳へ記載しご家族へ報告している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは、援助しながら自由に行なっている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は特に清潔さを重視している。又季節感やその時の行事に合った飾り付けを行い入居者の方に季節の変化を感じていただいたりしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りにも成れる一人掛けソファーや気の合った者同士が過ごせる多人数用のソファーを配置し自由に利用されている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、タンス・椅子・思い出のアルバム等があり居心地良く過ごせるように工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりを設置し安全に生活して頂けるよう工夫している。			

目標達成計画

事業所名 オークヴィレッジ かるがも

作成日：平成 25年 9月 28日

市町村受理日：平成 25年 10月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、町内会役員への参加依頼などの働きかけが少ない。	色々な方が参加しやすい状況に変えて行く。	年間テーマなどを決め、町内会役員への参加依頼など働きかけて行く。	1年間
2	6	身体拘束について、スタッフの理解が不十分な所がある。	身体拘束マニュアル等全スタッフに周知していく。	マニュアルの保管場所を変更(スタッフがより見やすい場所)する。又、「禁止の対象となる具体的な行為」に関してはスタッフルームに掲示する。	6か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。